

2603E ワーク・講義併用

小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン

俣野 秀典(高知大学 地域協働学部／学び創造センター 准教授)

講師略歴

北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科修了。地域科学研究会・高等教育情報センター研究員、高知大学総合教育センター講師などを経て、2024 年より現職。放送大学非常勤講師（ファシリテーション入門）。教育評価や教育方法を中心に、FD を含めた“Educational Development”に取り組む。高等教育開発およびファシリテーションの専門家として、学生がもっと学べる授業／教職員がさらに学べるワークショップの開発・支援・実施に携わる。学内外における研修を多数担当するほか、日本協同教育学会第 16 回大会実行委員長も務める。関連する著書に『アクティブラーニング批判的入門』（共著、ナカニシヤ出版）がある。

プログラム概要

“学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わることができたか” が学習成果を左右すると言われています。ここ数年、学生参加型や双方向型授業を謳う授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。

そこで本プログラムは、授業の活動性を高めるために、講義の一部にグループ学習やペア学習を取り入れてみたいと考えている／必要性を感じている教員を主な対象として、そのための考え方や方法を参加メンバーと共に学び、理解することを目的として実施されます。

※もっとも基本となる内容を扱いますので、確認・復習のための再受講や教員以外の参加者も歓迎します。

※紙の資料を当日お渡しします（事前の電子配布はありません）。PC は不要です。

※講師への相談・質問・交流などを希望される方は「新たな出会いと交流の部屋」にお立ち寄りください♪♪

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

1. 学生の学びを向上させるために、グループ・ペア学習を授業の一部に取り入れたい教員
2. アクティブラーニングの基礎理論や技法を知りたい教職員
3. 所属する組織で「協同的な学び」を採り入れたい FD 担当者

到達目標

1. グループでの活動による学習の効果を説明できる。
2. 協同的な学習活動を生産的なものにするための要件について二つ以上説明できる。
3. 学生を参加させるための技法を目的に応じて選択できる。